

主体的で感性豊かな生徒の育成

総合的な学習の時間 第1～3学年
金沢市立紫錦台中学校・教諭

1 事例の概要

本校では、「生きる力」のひとつに、「個性を發揮し、他者と協力しながらものごとを創造する力」があると捉えた。その創造の源となるものが、ものごとに感動し、感覚的にとらえて表現できる力、つまり「感性」であると考えた。そこで、感性を豊かにすることが、生きる力の育成につながるとし、上記の研究主題を掲げた。「総合的な学習の時間」において教科の枠をこえ、教科で身につけた知識・技能が相互関連的、総合的に働くという相乗効果をめざしたテーマの設定や学習活動を取り入れるとともに、「総合的な学習の時間」で得られた感動体験や培った感性、自己表現力等を教科の学習や生活の中に生かし、教科学習と現実の社会や生活とを結びつける学習をめざしている。

多くの感動体験や経験があればこそ、現代社会での活動においても、「さらに学びたい」「わかりたい、一緒に活動したい」という学習への意欲が生まれる。意欲的に活動し、創造性を發揮できるように努め、知性、感性、社会性のバランスがとれた生徒の育成をめざした。「総合的な学習の時間」を中心に、特別活動や教科学習との連携における学校の主体的なカリキュラムの研究・実践を進めてきた。

A-1 「総合的な学習の時間」の基本的な考え方と全体像

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・感動体験や培った感性、経験、自己表現力を、各教科での学習や今後の生活に生かす。
- ・教科学習と現実の社会や生活を結びつけることができる学習活動をつくりだす。

(2) 指導上の工夫点

- ① 「総合的な学習の時間」のテーマ設定
 - ・学年ごとに、「ふれる」「さぐる」「みがく」の領域ごとに大テーマを設定する。
 - ・大テーマの中で、活動班ごとに小テーマを設ける。
- ② 「総合的な学習の時間」の視点からの取り組み
 - ・小テーマの一覧表を作成する。
 - ・小テーマと関連した教科学習の内容を細かく洗い出し、教科の学習で取り上げたり、小テーマで活動する生徒にアドバイスする。
- ③ 教科の視点からの取り組み
 - ・教科と「総合的な学習の時間」との関連を洗い出し、教育課程の中に位置づける。
- ④ 評価の工夫
 - ・「飛梅(とびうめ)のあゆみ(ポートフォリオ)」による生徒の学習の軌跡を自己評価するとともに、指導者とのコミュニケーションを図る

B-1 テーマの領域と教科との関連図

B-2 「総合的な学習の時間」の視点から

B-3 教科の視点から

3 指導の実際

英語科の学習

生徒の活動	教師の支援・評価	時間
課題：金沢の文化を紹介しよう		
	※副読本：金沢市が作成した 「This is KANAZAWA」をさす	10分
①Chapter-1、2の復習をする。	副読本の文章をもとに金沢の文化を紹介する。	
②自分やグループのワークシートをもとにして金沢に対する意見や思いを発表する。班でより多くの意見を発表する。	・“Kenrokuen” ”Gold leaf” ”Kaga food” ”the Hyakumangoku Festival”の各項目に対する意見や思いを発表させる。	25分
③出し合った意見や思いをもとに、金沢の紹介文をみんなで協力して1つをつくりあげる。	・黒板にまとめた意見や考えを1つの紹介文にまとまるようコーディネートして発問する。	15分

C-1 指導案

C-2 飛梅タイム年間予定と活動

4 成果と課題

(1) 成果

生徒に対して行った「感じ方調査」のアンケート結果からは、学年による数値の違いはあるが全体として高い数値を示しており、3年間を通して順調に「感性」が育っていることが読みとれる。飛梅タイムが「充実していた」と答えた生徒は83%で、その主な理由に「知らなかったことがわかり、おもしろかった」「教科の学習ではできない体験、発見ができたから」という理由が過半数を占めている。さらに、「人と協力して活動できた」こともあげられており、本校の「生きる力」のひとつに「個性を発揮し、他者と協力しながらものごとを創造する力」があると捉えている考えに沿ったものになっている。このことは、「総合的な学習の時間」、教科学習、学校行事等を連携して行っている成果と捉えることができる。

また、【「総合的な学習の時間」に生かせる教科の視点で見た学習内容の一覧】をもとに【「総合的な学習の時間」の視点から、テーマと関連する教科内容の一覧表】を作成した。中学校では、教科学習内容を他教科の教師は深く理解していない傾向があるが、この資料を作成することにより、テーマに関連する教科の学習内容を本校の教師間で共有化し、学習内容や方法が「総合的な学習の時間」と教科の学習内容との間に関連したものが多くあるという認識により、教師自身が意識しながら双方の指導にあたったことは有意義であり、教科学習の確かな学力の定着に役立ったと考えることができる。

(2) 課題

感じ方調査の「感性」の中における「表現」がどの学年においても低い数値となっていることがあげられる。学習を通してつけた力を生かすことができるように、意識的に「総合的な学習の時間」と連携した学習を日常的に展開しなければならないと考える。また、学校生活全般においても学んだことを生かすために、各場面で生徒が積極的に活動するような場を支援していきたい。教科と「総合的な学習の時間」との連携をさらに進めていくためにもテーマ設定や活動の充実、広がりを図っていく必要がある。

今後の課題としては、7年をかけて定着を図ってきた成果を土台として「総合的な学習の時間」をさらに充実させなければならない。そして、以下のような観点で「総合的な学習の時間」と教科との相互関連の中から「確かな学力」の定着と向上をめざしていきたい。

○テーマ設定の工夫や教科教育との関連

○学年によるステップアップのシステムづくり

○地域とのさらなる連携強化

○テーマ実現のための人的、物的環境整備

D-1 飛梅タイム生徒アンケート結果

D-2 感じ方調査（感性テスト）の結果